★ ★ 校 長 室 か ら ★ ★　　令和４年１２月１６日号

【答えのない学習の意味】

本校では、総合的な学習の時間を中心に「探究活動（探究学習）」を進めてきました。（校長室から７月１日号参照）今後は、国語や体育などの教科においても、探究活動を積極的に取り入れた授業を進めていきます。今回はこの探究活動について少し掘り下げて説明したいと思います。

探究学習の重要な特徴のひとつとして、「答えのない課題に向き合うこと」があげられます。答えのない課題に向き合うとは、「誰も答えをもっていないこと」を自覚して、「自分たちで答えを創り出そうとしていくこと」です。

たとえば、「働くとはどういうことか」「生きるとはどういうことか」といった課題は、誰かが答えをもっているわけではありません。自分自身に問いかけていくことによって、自分なりの答えを創り出していくものです。答えのない問いに、自分なりの答えをみつけていくこの活動は、探究学習に欠かせないものです。

「自分自身」とか「自分なり」とかという言葉を使いましたが、文部科学省の答申に記載されている「個別最適な学び」につながっていきます。

また、答えのない課題に対して考えていくということは、その過程で自分の考え方が本当に正しいのか心配になったり、他の考え方はどうだろうかと気になったりするはずです。そのため、探究活動を進めていく過程では、生徒同士の意見交換（考えたことを批評し合う）が大事になってきます。論理的な説明力や明快な表現力が鍛えられます。

生徒同士がお互いの考えについて批評し合う活動を、文部科学省答申では「協働的な学び」と表現されています。また互いに批評し合うことをクリティカルシンキング（批判的考察）とも言います。

答えのない問いに自分から積極的に向き合うことにより、生徒たちは自分自身の新しい可能性を発見することができるようになります。自分はどう考えるのか、自分は何を答えとするのか。すでにある答えを理解したり記憶したりするのではなく、答えを自分が決めていくことで、

「自分はこんなことを考えていたのか」「こんな考えが生まれるのか」と、自らの可能性に気づくことができるのです。このような学習は、生徒たちにとって何よりも嬉しく、そして楽しい経験となります。そして自己肯定感が高くなっていくことにつながります。

実際に、探究活動を進めていった結果、授業がつまらないと言っていた生徒が、総合的な学習の時間がはじまると、見違えるように生き生きと活動するようになっています。それはこのような「自らの可能性に気づく楽しみ」が探究学習にあるからです。

自分の可能性に気づき、自己肯定感が高くなっていくと、自分で考えることはますます楽しいものになっていきます。

自分で考える力のことを文部科学省は「生きる力」の一つとしています。

※探究活動を取り入れた授業の例（12 月 14 日　1 年生の体育の時間）

学習課題　　「グループで楽しいダンスを仕上げよう」

授業の視点　ここでいう楽しいダンスとは、どういうダンスなのか。

・みんなの動きがそろっている?

・みんなの動きに特徴がある（工夫されている）？

・みんなが楽しく参加できている？

このように、「楽しいダンス」という課題について、一人一人が考え、みんなで話し合い、ダンスの様子を録画し改善策を考える。

授業の様子　それぞれのグループ自分たちの考える「楽しいダンス」を表現していました。またクラスの全員が積極的にダンスに参加し、楽しく汗をかいていました。